



## 河川の強化 決壊を防ぐ事業は

竹村 仁司 議員

流下能力の向上を  
順次進めている

産業建設部長



▲氾濫している河川（国土交通省出典、新潟県五十嵐川）

河川の防災上の安全性、決壊のおそれ、越流のおそれのある箇所はないのか、現在既に進めている河川の強化、河川の決壊を防ぐ事業は。

**産業建設部長** 県では、流下能力の低下箇所、堤防天端幅が狭い箇所など、水防上注意をする箇所を重要水防箇所として把握しており、現在、海部建設事務所管内で26カ所、そのうち市内では領内川の2カ所が重要水防箇所となっている。

現在進めている河川の強化の事業では、日光川の最下流部で新日光川水閘門の改築がことし3月に完成し、運用を開始している。引き続き流下能力の向上を図るため、旧水閘門の撤去を今年度から進めており、あわせて流下能力の向上を図る河床掘削を下流から順次進めている。このほか堤防強化を目的とした堤防拡幅や堤防天端舗装を実施している。また、台風など大雨が予想される場合

には、出水時の日光川等の河川水位の上昇を抑制するため、事前に支線排水路や日光川河口域の水位を低下させ、貯水量の確保に努めている。

### 空き家対策の方向性は

第1回愛西市空家等対策協議会を受けての空き家対策の方向性は。

**市民協働部長** 空き家によって発生する問題を抑制し、地域住民の安全・安心な生活環境を保全する対策を講じたい。

本市での調査結果から、危険と思われる空き家が何件、そのうち所有者不明のものが何件あるのか。空き家で老朽危険家屋の除去をどのように考えているのか。

**市民協働部長** 外観目視により老朽度が高いと判断した空き家は約40件。そのうち所有者等が不明なものが10件ほど。

次に、除去に対する考

え方で、空き家の管理については、管理責任を負っている所有者が適正な管理をする義務がある。今回行った意識調査の結果から、解体に対する支援を望む声が多かったため、今後、国・県の補助制度を活用した除去支援制度の導入について検討が必要である。

空き家対策に期待すること、今後の取り組みについては。

**市長** 愛西市には、農村部と都市部がある。この二面性を活用してという話もあった。先の協議会の折にも、「農地をうまく活用した対策ができないか」という意見も出ている。そういった意見を積み重ねながらよりよい対策を考えていきたい。国や県の法律、規制等もしっかりと研究をしながら具体的な方策を打てるよう努力していきたい。